

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	多機能型事業所ミルキーウェイ(児発達支援)		公表日		令和8年 4月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールが広く、運動遊びに適した環境になっている ・マット状のお布団やクッションチェアを活用し、利用児の状態に応じた対応ができています ・現在の重心児（医療的ケア児）1名に対して、環境設定が適切に整えられている 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の大柄な利用児と未就学の小柄な利用児が同じ空間で過ごすため、安全面で細心の注意が必要 ・空間が広いことで、利用児によっては区切りや落ち着けるスペースを必要とする場面がある ・長期休暇中は利用人数が増え、広いホールでも手狭に感じることがある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の利用状況において、人員配置は概ね適切である ・放課後等デイサービスの児童が来所するまでは、十分な体制が確保されている ・活動内容や支援の流れに応じて、柔軟に職員配置を変更できている ・急な変更があった場合でも、職員間での情報共有・伝達ができている 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団での関わりが少なく、友達同士の関係づくりの機会が不足している ・スタッフと1対1の関わりが多く、利用児にとって良い面と課題の両面がある（社会性の育ちなど）
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児が必要な物を自分で取りやすいよう、一部の物品配置が工夫されている ・絵や写真カードによるスケジュールを活用し、視覚的に分かりやすい説明ができています ・ワンフロアでバリアフリーのため、移動しやすい環境になっている ・パーテーションを活用し、子どもに応じた環境構造（空間の区切り）ができています 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレがやや遠く、暗さや温度面（寒暖差）に課題がある ・パーテーションの隙間や高さ・低さが、子どもに与える影響について更なる検討が必要
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・温湿度計を設置し、視覚的に室内環境（温度・湿度）を把握しやすくしている ・グループで担当を決めて掃除を行うなど、清掃体制が整えられている ・空間の広さについては適切であると感じられている 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の発生が多く、衛生面での課題がある ・清掃が十分に行き届いていない場面がある（個人差あり） ・床にマットや布団を使用する利用児が多いため、より丁寧で日常的な清掃が必要 ・マット等を準備する前に、床清掃を徹底する意識づけが必要
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションを活用し、簡易的に区切られた空間を確保している ・個室（和室）を活用し、必要に応じて個別対応ができる環境は整っている ・個室利用が重複する場合は、時間調整を行いながら柔軟に対応している ・他部署と連携・調整しながら、限られた空間を有効活用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の部屋が限られており、他部署との調整が常に必要になっている ・カムダウンや行動分析に基づくタイムアウトなど、即時対応が必要な場面で個室がすぐ使えないことがある ・個室が1つしかないため、複数の利用児が必要とする場合に対応が難しい ・個室が必要な利用児に対して、常時確保できる環境が不十分
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの時間を設け、職員間で意見交換できる機会が確保されている ・問題や課題が出た際に、改善策を検討する場を適切に設けることができている 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所評価を定期的実施している ・全体会議を通して、保護者からの評価や意見を職員全体で共有できている 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・従業員向けの評価制度があり、意見を出せる仕組みが整っている ・リーダー会議を通して、現場の意見を吸い上げる体制がある ・全体会議や各部署の意見をリーダーが集約し、業務改善につなげている ・意見を伝えた際には、しっかりと聞いてもらえる風土がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を伝える機会自体が少なく、発信の場が十分とは言えない
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では第三者による評価は必要がない為、実施していないが必要があれば評価を行い、結果を改善につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価が実施されているか、職員に十分周知されていない ・評価体制や外部評価に関する情報共有が不十分 ・職員が評価体制について把握できていない状況がある

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内での研修や、外部講師を招いた研修が実施されている ・研修案内が随時共有され、情報提供が適切に行われている ・交通費支給など、研修参加を後押しする体制が整っている ・外部サービス（ジョブメドレー等）を活用し、学習機会を確保している ・個人で見つけた研修にも参加可能で、自己研鑽を支援する環境がある ・定期的に研修が開催され、受講機会が継続的に確保されている 	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上で支援プログラムが公開されており、外部から内容を確認できる体制が整っている 	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児や保護者に応じて、その都度アセスメントシートを作成している ・個別性に配慮した支援の基盤づくりができている 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容について全員で協議する体制がある ・担当者が中心となり、支援計画の検討・作成が行われている ・毎月の計画に基づいた進捗や目標を記入する様式が整備され、職員間で共有しやすくなっている ・作成時に話し合いの時間を設けるなど、十分に検討できる体制がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成時に、全ての現場スタッフに関わる機会が十分ではない（参加できる職員が一部に限られている場合がある）
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画が職員間で共有されている ・計画書をファイリングし、確認しやすい状態に整備されている ・個別支援計画実施表を活用し、職員がいつでも閲覧できる体制がある ・月ごとの実施表により、その日の支援内容や目標を把握しやすくなっている ・各利用児ごとの計画を見やすく整理し、計画に基づいた支援を実施できている 	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じてアセスメント方法を使い分け、確認を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントツールの活用が十分にできていない ・標準化されたツールを用いたアセスメントを実施している職員が少ない ・アセスメント手法やツールの活用方法に関する知識・理解の向上が必要 ・ツール活用に関する研修や学習機会の充実が求められる
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の全項目について、その利用児に関わる職員で確認しながら支援が遂行されている ・関係職員間での共通理解を持った上で支援が行われている 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所全体の活動内容について、職員全体で立案しているという認識がある ・重心・重心外などチームごとに分かれて検討・実施している 	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が偏らないよう、制作や運動などテーマを分けて工夫している ・季節を感じられる活動を取り入れている ・天候や季節に応じて柔軟に活動内容を変更している ・動的活動と静的活動のバランスを考えて計画されている ・利用児の体調等に応じて活動内容を調整している 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動案の作成が一部の職員に偏っている ・活動案を出さない職員がいるなど、全体での参画に差がある
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の利用時から支援を意識して関わりが行われている ・個別活動を中心としつつ、長期休暇中は集団活動も実施できている ・状況に応じた支援計画を作成し、それに基づいた支援が行われている ・全体として支援が実施されているという認識がある 		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・昼礼としてミーティングを実施している ・毎日時間を決めてミーティングを行っている ・スタッフ一人ひとりが意見を言いやすい雰囲気があり、当日の留意事項などを共有できている ・繁忙期は複数人で打ち合わせを行うなど、状況に応じた柔軟な対応ができています ・通常時はリーダー主導でミーティングが実施されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤直後の対応（来所児対応・送迎等）により、ミーティング内容を十分に確認できない場合がある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・児発内では情報共有ができています ・ミーティングを行い、職員間で打ち合わせの機会が確保されている ・日常的に顔を合わせた職員同士でこまめに情報共有が行われている ・申し送りノートを活用し、勤務時間の違いがある職員間でも情報共有ができています ・課題があった場合は、後日のミーティングで振り返り・共有が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせが十分に行えず、口頭での簡易的な共有にとどまる場合がある ・情報共有の方法やタイミングにばらつきがある可能性がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援内容や状況を記録し、情報をつなげている ・ノートを活用し、簡易的な共有から重要事項の整理まで使い分けている ・毎日のミーティングや会議で支援方法を話し合い、内容を記録として残している ・発作や利用時の様子を記録し、支援の検証や改善につなげている 	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングが実施されている ・定期的（最長でも半年に1回）にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しが行われている ・支援内容の振り返りと改善が継続的に行われている 	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携に積極的に参画している ・保育所見学などにも参加し、外部との連携・理解を深めている ・利用児の担当スタッフが会議等に出席する体制が整っている ・必ず担当者が参加することで、個別性のある情報共有や支援連携ができています 	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や関係機関と積極的に連携している ・必要に応じて病院受診に同行し、情報共有や支援の質向上につなげている ・疑問点があれば主治医に確認するなど、適切に専門職と連携している ・各関係機関との連携が概ね取れている 	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートを活用し、保護者や関係機関との情報共有・相互理解を図っている ・園見学を行い、保育所等との連携強化に努めている ・園との共有ノートを活用し、継続的な情報共有ができています 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所利用に関する保護者の意向や検討状況が十分に把握できていない場合がある
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・該当児童がいる場合には、支援会議に出席するなど情報共有を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は就学前児童が不在であり、該当ケースでの具体的な取り組み実績がない
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて機会を設ける体制がある ・他事業所とノートを活用し、情報共有や状況把握ができています ・他事業所から助言を受けるなど、連携を通じて支援の質向上につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は該当する機会がなかったため、実施実績がない
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事を積極的に調べ、参加している ・イベントに参加するなど、地域との関わりを持つ機会を作っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・園との交流会など、定期的・計画的な交流機会が十分に設けられていない ・地域や他機関との交流機会にばらつきがある ・交流の機会自体が少ないと感じている職員もいる
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・LINEやHUG連絡など、複数のツールを活用して情報共有を行っている ・状況に応じて連絡手段を使い分け、円滑なやり取りができています ・全体として情報共有ができていますと認識されている 	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	・ペアレントトレーニング(ペアトレ)に職員自身も参加し、必要に応じて保護者へ情報提供できるよう備えている	・保護者が参加できる研修会の機会が十分ではない ・平日午前中など、参加しやすい時間帯での研修開催の検討が必要 ・家族支援に関する取り組みについて、職員間での認識にばらつきがある(「わからない」という意見あり)
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・保護者等へ直接来所時や口頭で説明を行い、対面での丁寧な情報提供ができています ・利用契約時に運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っている ・内容に変更があった場合は書面で配布し、差し替えの案内を行うとともに、必要に応じて口頭で補足説明を行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・利用児および家族の意向を丁寧に聞き取り、個別支援計画等に反映している ・モニタリングやアセスメント、計画作成の過程において、保護者や利用児の意見を大切にしている ・本人・家族主体の支援が意識されている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		・個別支援計画を提示しながら、保護者へ支援内容の説明を行っている ・説明の上で、保護者から同意を得る体制が整っている ・初回は約3か月ごと、その後は6か月ごとに来所いただき、対面で説明・同意取得を行っている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	・必要に応じて会議等で共有した上で、適切に相談対応を行っている ・送迎時など日常的な場面で保護者の話を聞く機会を持っている ・SNSや送迎時のやり取りを通して、密に連絡を取り合い、必要に応じて助言を行っている	・定期的・計画的な相談支援の機会が十分に確保されていない
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	・ハロウィンイベントなどを開催し、家族参加の機会を設けている ・イベントを通して、保護者同士が顔を合わせる機会は一定程度確保されている	・保護者会やきょうだい同士の交流会が近年開催できていない ・イベントはあるものの、保護者同士の交流まで十分に発展していない ・保護者同士・きょうだい同士の交流機会を意図的・計画的に設ける必要がある ・交流機会の内容や実施方法について検討が必要 ・コロナ禍の影響により、交流機会が制限されていた
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・相談や申し入れに対して、個人で判断せず職員間で共有して対応している ・必要に応じて管理者や相談支援事業所とも連携し、適切な対応を行っている ・組織として対応する意識があり、迅速かつ適切な対応に努めている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	2	・ホームページを活用し、情報発信の基盤が整っている ・日々の活動内容については、一定程度発信できていると認識されている ・HUGなどのツールを活用し、個別の情報共有ができています	・HPやSNSを活用した情報発信(活動の様子・行事予定等)が十分とは言えない ・全体的な活動の見える化(外部への発信)が不足している ・SNSや外部ツール(例: BAND等)の活用について検討の余地がある ・情報発信を担う人材の活用(得意な職員の活躍)を進める必要がある
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・個人情報の取扱いについて、細心の注意を払っている ・職員が個人情報保護の重要性を認識し、適切に対応している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・紙や写真カードを常に携帯し、状況に応じて視覚的な手段を用いた意思疎通ができるよう配慮している ・利用児や保護者の特性に応じた情報伝達の工夫が行われている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	・地域に開かれた事業運営を意識して取り組んでいる	・コロナ禍以降、地域住民を招いた行事等が実施できていない ・地域に開かれた取り組みの再開・充実が必要
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	・各種マニュアル(事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等)を整備している ・委員会等を通じてマニュアルを作成し、職員および利用児(家族)への周知が行われている ・定期的な訓練が実施されているという認識がある	・発生を想定した実践的な訓練が十分に実施できていない場合がある ・訓練の実施状況について、職員間で認識にばらつきがある(実施されているか不明確な意見あり)

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・業務継続計画（BCP）が策定されている ・定期的な訓練が実施されているという認識がある ・非常災害に備えた体制づくりが行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難や救出を想定した実践的な訓練が十分に実施できていない場合がある ・訓練の実施状況について、職員間で認識にばらつきがある（実施有無が曖昧）
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・服薬や発作等の情報を、緊急時対応書類などで常に確認できる環境が整っている ・利用児の健康状態について日常的に確認が行われている ・支援計画説明時に服薬情報や予防接種の記録（コピー）を受け取り、情報を把握している ・発作状況については、保護者や他事業所と連携しながら継続的に確認している 	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーに関して、医師の指示書に基づく対応ができる体制が整っている ・給食作りの際に、常に用心して安全対策がとられている ・現在の利用児には、指示書に記載される程度の食物アレルギーを持つ児はいない 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画を作成し、支援における安全管理が意識されている ・年2回の研修や訓練を実施しており、職員の安全意識向上に努めている ・安全管理が十分に整った環境で支援が行われている 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		緊急時対応リストなど同意・確認を得ている。 わからない。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例を事業所内で共有している ・ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で協議・話し合いを行っている ・職員同士で互いに注意し合い、再発防止に努めている ・都度の対応で柔軟に検討・改善が行われている 	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修にも積極的に参加し、行動分析などを通して虐待発生の原理や防止策を学んでいる ・虐待・身体拘束防止委員会を設置し、体制を明確化している ・年2回の研修を実施し、職員への知識・意識向上を図っている 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束が必要な場合の基準や判断は組織的に検討している ・事前に保護者へ十分に説明し、了解を得た上で対応している ・児童発達支援計画に必要事項を記載し、記録を残している ・現在の利用児には該当者がいないが、体制・手順は整っている 		